

八雲町育成牧場運営協議会 会議録

■日時 令和5年1月18日（水） 13:30～14:10

■場所 八雲町役場3階議員控室

■出席

運営委員 安藤 勉、舟田 進一、佐藤 正之、都築 岳志、田原 隆行、
小栗 雅人、小野 泰、前川 眞由美、寺田 裕、
川原 成人（渡島農業普及センター渡島北部支所長）、
佐藤 貴宏（渡島農業普及センター渡島北部支所地域係長）、
上村 博昭（新函館農業協同組合八雲支店北部畜産センター長）、
澤村 建（北海道農業共済組合みなみ統括センター道南支所道南東
部家畜診療所長）

指定管理者 株式会社青年舎

下里 晃牧場長、荻本 正マネージャー

八雲町 岩村町長、石坂課長、宮下課長補佐、高嶋係長、角屋技師

■顛末

1. 挨拶（八雲町長 岩村 克詔）

いまだ新型コロナが収まらない中、肥料、飼料の高騰など、農業者の皆様は大変苦勞されている状況にあると思う。そのような状況に対して、町からも支援していきたい。

また、新型コロナの影響で話を聞く機会が減っているので、ぜひいろいろな話を聞かせていただきたい。今後農業者の中から町議会議員、町長などが選出され、町政に反映できるような体制を期待している。

2. 報告事項

○令和4年度運営状況について

・令和4年度決算見込み（指定管理者説明）

委員より異議なし

・令和4年度使用料内訳（指定管理者説明）

委員より異議なし

・令和4年度入牧状況（指定管理者説明）

委員より異議なし

・委託牛増体量調（指定管理者説明）

委員より異議なし

・疾病、事故発生状況および繁殖管理状況

管理者) 鼓脹症が4頭発生、うち2頭が死亡した。来年度は見回りを強化し、早期発見に努めていく。また、小型ピロプラズマ症が7月末～10月までに15頭発生した。8月に渡島家畜保健所による乳牛の全頭検査を行っており、12頭陽性となっている。北里大学と相談し、早期のバイチコール使用を検討している。

委員) どのようなプログラムで駆虫薬を使用しているか。

管理者) バイチコールは乳牛のみ8月に2回使用、イベルメクチンは毎月使用した。

委員) 今年度の繁殖状況について伺いたい。

管理者) 繁殖の治療については、昨年度が40頭ほどに対し、今年度は9頭となっており改善されている。

委員) 蹄病が多いようだが、原因は。

管理者) 8月、9月に増加傾向にあるが、雨などの影響により、通路が泥濘化していたことが原因と考えられる。また、程度の軽いうちに治療したため、治療頭数は増えている。

3. 協議事項

○令和5年度の運営について

・道営草地畜産基盤整備事業計画（事務局説明）

委員) 令和5年度事業では有機認証草地の対象となるか。

管理者) 次年度は有機肥料を使用し、認証がとれるよう整備していく。

4. その他

委員) 鼓脹症については、見回りの強化が重要と考える。また、小型ピロプラズマ症については、入牧前から駆虫薬投与プログラムの計画を立て、ダニ対策を行ってほしい。

預託戸数、放牧頭数などについて、今後どのようなあり方が望ましいのか、もっと話し合うべきと考える。

委員) 鼓脹症に関して、詳しい原因は不明だが精査していく必要がある。こまめな見回りで、早期発見していくことが重要と考える。

管理者) 小型ピロプラズマ症に関しては、入牧直後の駆虫を重点的に行いたいと考えている。

事務局) 近年、酪農家の大型化等が加速するにつれて、育成牛を飼養管理する農家も増加し、預託頭数は減少傾向にあるが、飼料は高騰しており、国産粗飼料の給与等が見直されている中、放牧は重要だと考える。町内の農家の方々により多く利用してもらえるよう、関係機関、株式会社青年舎とともに協議していきたい。

- 委員) 利用者の意見をこまかく聞いていくことで、預託頭数などの改善につなげてほしい。
- 町長) 周年育成牛を管理、飼養する農家も多くなり、預託依頼する農家が減ってきているのが現状。飼料、肥料等の高騰もあり、町や指定管理者だけでなく、農協も交えながら意見交換をすることが重要だと考える。今日この場だけでなく、小さなグループでもいいので意見交換し、農協および町へ意見を挙げて行ってほしい。様々な状況を踏まえながら町内の酪農が縮小しないよう、支援していきたい。
- 委員) 誰もが気軽に意見できるような仕組みが必要なのでは。
- 町長) 個々の意見も聞いていくが、まずは農業者によって組織された農協へ意見や要望を述べていただき、その内容を集約し、農協が町や指定管理者へ伝える手順を踏んでほしい。